

## 子育てPJ 学習研修 安全管理

- 今回は学童クラブ等の子育ち現場における安全管理についてということで、お話しして
- 主には怪我が起きないようにや体調不良等に気づけるようにと起こってしまったらの話
- どの子育ち現場においても安心安全が前提の運営となってくる
- なのでとても大事なポイント
- 短い時間で要点を伝えるので解りづらいかもしれませんが、幸い録画なので
- 必要に応じて見返したり、この話を元に現場の職員に聞いたりしながら学んで

### 予防の観点から

#### ○環境整備

- 施設全体の整理、点検、清掃

清掃は大事。埃やばい菌。健康管理の点やアレルギー対応でも。怪我の防止にも 整理整頓も怪我、事故防止に

- 危険個所の発見

点検や日常の気づきの中から危険個所を見つける。日々刻々と変化しているもの。何かがはがれて垂れ下がっていたり、壊れてとがっていたりとか。1度徹底して完璧という事はない。

- 危険個所の除去

見つけた危険は除去しなければならない。角や出っ張りにクッションを付けたり。運用の工夫でも除去できる。様々な工夫があるのでみんなで相談して検討しましょう。相談は大事です。

- 遊具、玩具、食器、その他備品の整理、点検、清掃

保育園は毎日しています。毎日でなくても消毒は必要。定期的にやるべき。壊れた物はないか、使えないのに放置しているものはないか。そういったものはそんざいに扱われやすい。投げたり壊したり。

- 子どもの行動特性を考えて

掲示物を見て下さい。ちゃんと子どもの目線に合わせて貼られていますか？子どもがどう動くか、どう反応するかを考えて環境設定を行わなければならない。適度な高さは登る。登ったらジャンプする。ジャンプしたら転ぶ。広げりゃ走る。ぶら下がってたらジャンプして触ろうとする。届かなきゃ助走をつけて届くまで繰り返す。隙間があれば入り込みたくなる。etc…

- 動線の確認

子どもやスタッフの動きはどうなっているのか。不要な交錯はないかなど。設定や配置の見直し。外に出るタイミングなど、ずらして混雑を避けたり。

- システムの変更

動線を確認しての改善。非合理的なシステムになっていないか？例えば外遊びの道具を部屋から持っていく等

- 指導、育成方針の設定

状況にあった声かけや促し等、丁寧に方針を吟味する必要がある。「今のメンツだと毎回始める前に注意喚起等の声掛けは必要だね」とか「マメに促していかないとすぐ忘れちゃうね」とか「子どもたちのこの活動を担保することでフラストレーションを解消して静と動の活動のメリハリを付けましょう」だとか。行事工作等も設定に工夫が必要。

## ○育成中

### ・視診

保育の基本です。様子を見て心身の状態を判断します。学童では見逃しがち。主張してくる前に気づけないと。

### ・手洗い、うがいの徹底

ハンカチ、ティッシュの確認。今ではマスク着用なども。基本的生活習慣の指導の観点でも必ず行いたい。掲示等でも呼びかけも必要。

### ・体調管理の促し

子どもだからまだ自分ではできない。夏、汗拭き。冬は上着の着脱等。日常では疲れたら休ませる等。自己管理できるように促していく。これも基本的生活習慣の指導でもある。

### ・職員のルール理解と児童へのルールの徹底

環境整備が意味をなさない。なんでかわからないけどダメでは聞かない。統一されてないと守れない。半面柔軟さも大事。交渉のできない環境なんてルールを破る以外方法がない。子どもたちが理由が解っていたら交渉できる。よく考えさせた上で子どもと一緒に責任者に交渉してあげたりってのもいいのでは。

### ・活動前、活動中の予測される危険への注意喚起

予想される事は必ず前に。必要に応じて途中にも。いつものことは掲示でも。大人も見ても声掛けの必要を思い出したりする。取り組んでいる証明にも掲示は大事。

### ・児童の活動を注視し、臨機応変に対応

一番難しい。全体の把握しなければならない。自分の向きだったりも基本にのっとって。鋭い気付きが必要だが、それには経験が伴う。

### ・児童との関係性の構築

危機管理的にも大事。危険や事故を伝えてくれる。勝手な自己判断をせず相談してくれる。基本的に子どもは良い関係を崩したくはないと思うもの。

- ・ 沢山気を付けなければならない所もあるし、覚えきれないから大変と思うでしょう。
- ・ できる事から一つ一つ。少しずつ広げていく。それで十分。
- ・ 意識していれば経験とともに感覚として身についていくもの。
- ・ 環境はみんなで作るものなので、一人で頑張らなくていい
- ・ ルールや決まり、枠組みは、子ども達を縛ったり、制限を加えるものではない
- ・ 子ども達の為に定められている。そうでなければ見直すべき。



## けが等の対応

### ○設定

#### ・すぐ目に入る所にフローチャートを張っておく

怪我、アレルギー、嘔吐物処理等。マニュアル等の中にあたりします。探してください。なきゃ作って。

#### ・フローチャートに沿って落ち着いて対応する

怪我や症状にビビる事もあるかもしれないが、落ち着いて。落ち着いて対応しないと児童自身も周囲の職員も慌てる。怖くなっちゃう。慌てて対応すると見落としが起きたり失敗したりする。

#### ・定期的に職員間で訓練を行う

難しいが極力落ち着いて対応する為にも練習が必要。まずは机上訓練でもいいからシミュレーションしておく。避難訓練等と同様です。春は怪我や病気の対応。夏は熱中症対応。秋は災害。冬は嘔吐物処理等。

### ○基本的な流れ 現場にあればそれに倣って。

⇒は日誌等に記録とヒヤリハット報告

怪我の場合、体調不良の場合、その他事故の場合

#### 事故発生

怪我の場合。病気の場合。食物アレルギーの場合はまた今度。

#### 症状を見る

体調不良なら熱を測る。腹痛ならトイレを促す。児童と話して、見てあげるだけ、把握だけでいいよ

↓

→

うなものであればここで終わり。「痛かったね。冷やす？大丈夫そう？」症状を引き出す。

#### 職員に伝達・相談

処置や対応が必要であれば自分が役割を離れてしまうので。また、共有のため。状態が深刻な場合は交代するため。その判断を仰ぐため。処置が要らなくても共有。

↓

**重症対応の場合** 役割分担。複数で対応する。

#### 対応・応急処置

**軽傷の場合** 静養室で寝かして様子を見る。絆創膏を貼る。冷やす。※消毒、湿布、保冷剤

↓

→

**重症の場合** 氷嚢や氷枕、嘔吐用バケツ等用意。清潔な布巾を当てて圧迫止血。部位固定。

#### ご家庭へ連絡

**軽傷の場合** 連絡帳、電話等で連絡。文章は難しいから、込み入ったことや誤解を招きやすいものは電話で。目や歯等首から上は神経質になりがちなので電話の方が。

↓

→

**重症の場合** 緊急連絡で繋いでもらう。症状を報告して、こちらのつもりを伝え判断を仰ぐ。迎えにこれるか、いつになるか、こちらが病院に連れていった方がいいか等。同時進行。

#### 行政・法人へ連絡

現段階での状況報告。これからどう動くつもりか。必ず法人にも連絡を。所長、エリマネ。

#### 病院へ連絡

見てくれる病院を探す。アボが取れてから動く。病院からの指示にしたがって。状況によって救急車。

#### 病院を受診

お金、携帯電話を忘れずに付き添う。責任者は現場に残って指揮。

#### 経過を簡単にまとめる

戻ったら一通りの報告の連絡の前に情操を整理しましょう。

#### ご家庭・行政・法人へ報告

必ず各方面へ。連絡したところに全て。漏れが無い確認。漏れてたらここで。

#### 事故報告書の作成・提出

当日中でなくてもいいがなるべく早く。

- ・経験したことが無い事は子どもも大人もできません。
- ・シミュレーションも大事。
- ・小さな毎日の積み重ねが大事。
- ・もし大きな事故が起きたら慌てず落ち着いて、相談しながら。
- ・起きない為にはヒヤリハットを集める事と、検証してフィードバックする事が大事。